

編集後記

2005年度の藍野学院紀要第19号が完成しましたのでお届けします。

光陰矢の如し。今この編集後記を書いているが、まさにその感じが致します。第18号の編集後記を書いたのがつい数ヶ月前のことのように思いますが、あれからすでに一年が経ったわけです。その間、藍野学院は着実に成長しています。大学は2学年となり、学生数は倍に増え、活気がみなぎっています。短期大学や専門学校も、学生数は少ないものの、皆それぞれの目指した目標に向かって目を輝かしながら精進しています。

藍野学院の一つの特徴として多様性があります。学科も看護学科、理学療法学科、作業療法学科と多様ですし、将来はさらに学科が増えるでしょう。また、教官のバックグラウンドも様々です。医師、看護師、理学療法士、作業療法士は無論のこと、心理学者、物理学者、言語学者、社会学者、法律家、統計学者等々多彩です。医師にしても基礎医学から臨床医学まで幅広い領域がカバーされています。

これらの多様性は何を意味するのでしょうか。それは藍野学院が広く様々な方向へ発展する可能性があることを意味します。また、異分野の人たちが共同してある目的に向かって作業をするとき、同じ専門集団が作業したのでは得られない成果を挙げることができます。

多様化や個性化が求められる時代です。藍野学院の教育や研究活動に藍野学院の人材の多彩なことが、きっと新しい成果を生むでしょう。そのようなことがこの紀要にも反映されているように思います。第19号はこれまでになく充実したものになりました。来年の紀要はさらに充実することでしょう。

来年、また編集後記を書ける頃が楽しみです。

(紀要編集委員長：高橋清久)

藍野学院紀要 第19巻

平成18年3月31日

編集兼発行者 学校法人 藍野学院
〒567-0012
大阪府茨木市東太田4-5-4
電話 (072) 627-1711 (代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒601-8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話 (075) 681-2741